

西洋建築史第3回

古代2 - ローマの建築と都市

中島 智章

序.『建築十書』のビルディングタイプ論

aedificatio=公共建築(軍事+宗教+実用)+住宅建築 実用建築 港、フォルム、柱廊、浴場、劇場、遊歩廊

第1書：理論、都市、都市防御施設 第2書：建築の起源、構法と材料 第3書：神殿、イオニア式

第4書：コリント式、ドリス式、神殿 第5書：公共建築(フォルム、バジリカ、劇場、浴場、港)

第6書：私的建築(都市住宅、田園住宅)、理論 第7書：壁床天井仕上げ、絵画論、塗料

第8書：水利学(水源、水質、水道、井戸) 第9書：天文学、時計 第10書：建設機械、水利機械、武器、防御

1.古代ローマの都市計画

帝都ローマ(フォルム・ローマヌム、七つの丘)と属州の植民都市(グリッドプランの軍事都市 Florentia)

異民族の拠点がローマ都市に Mediolanum, Lutetia Parisiorum, Colonia Agrippinensis, Vindobona, Londinium

2.古代ローマ建築の構法と円柱

軸組構造ではなく壁構造(アーチ構法やコンクリート壁) 円柱は装飾と化す パンテオン(汎神殿) クラウ
ウェスパシアヌス帝のフラウィウス闘技場(コロッセウム)：ドリス式 イオニア式 コリント式 その亜種

3.ローマ皇帝たちの恵与指向

共和政：1年任期のConsul(執政官)×2 ポンペイウス劇場 *Dictator(独裁官) ex)Julius Caesar

帝政：Imperator, Caesar, Augustus... Princeps(第一人者)によるPrincipatus(元首政) *「共和制」の体裁は残る

ユリウス=クラウディウス朝(Augustus, Tiberius, Caligula, Claudius, Nero) BC27-AD68 *元老院と皇帝親衛隊

サトゥルヌス神殿(国庫)、カストルとポッルークス神殿、南仏ニームのメゾン・カレ(ローマ神殿の正面性)、

ウェスタ神殿(円形)、平和の祭壇、アウグストゥス帝のフォルム、マルケッルス劇場(ローマのドリス式)、オステア港

69年の内乱(Galba, Otho, Vitellius) フラウィウス朝(Vespasianus, Titus, Domitianus) 69-96 *中流出身の皇帝

ウェスパシアヌス帝のフラウィウス闘技場 ティトゥス帝治下に完成、ティトゥス凱旋門

五賢帝時代(Nerva, Trajanus, Hadrianus, Antoninus Pius, Marcus Aurelius Antoninus) 96-180 *「連邦国家」

トラヤヌス帝のフォルムと市場、トラヤヌス記念柱、パンテオン、アントニヌス・ピウスとファウスティナ神殿

Pax Romanaの終焉...マルクス=アウレリウスの実子Commodusの暴政と193年の内乱(第2次三帝乱立)

セウェルス朝(Septimius Severus, Caracalla, Geta, Elagabalus, Alexander Severus) 193-235 *属州にローマ市民権

セプティミウス・セウェルス凱旋門、カラカラ帝の大浴場(Caldarium, Tepidarium, Frigidariumなどから成る)

軍人皇帝時代 「世界の再建者」Aurelianus...加Iによる城壁撤去から300年、再び城壁を建設 パルミラ

末期帝政時代：Dominatus(専制君主政)の時代 284~ *Diocletianusの帝国四分統治(293)...東西に正帝副帝

Constantinusの基督教公認(313)と帝国再統一&遷都(330) Theodosiusの基督教国教化(391)と帝国二分割(395)

マクセンティウス帝のバジリカ(大規模な内部空間の実現)、コンスタンティヌス凱旋門(浅浮彫の再利用)

住宅建築 ポンペイの住宅群(AtriumとPeristylum)、ローマへ人口流入 インストラ(島)とよばれる集合住宅

ネロ帝のドムス・アウレア(Grotesque)、ハドリアヌス帝のヴィッラ(「建築家皇帝」お気に入りの場所を再現)

その他 風の塔(アテナイ)、ガール水道橋 Porta Maggiore セルウィウスの城壁とアウレリアヌスの城壁

アウグストゥス廟、ハドリアヌス廟(サンタンジェロ城) ディオクレティアヌス帝のスプリト離宮